

して御冥山より東臨ありて見えて是に即刺
ふ跡と号し時よりなり祈の師忽ち諸教成就を
しや候び名ぞ聖城はけり此處にけり義
守も頓ちけり水にて中館の神より告せられ
道より結願の巻数と将ふもく候を候び限
なり其後より夜より思議の言夢なり一日白雲
まの上福もあてらふとわたり守に護り彩あま
聖衆頻降し管絃音楽の振見えぬ時ハ夜みの
は二面八臂の猛神共甲冑と帯したるが奉附

後御前よりへの上福や分達と始り魚肉五辛の類と食せ
す常に沈香伽羅油清香の匂薫下精進加持讀經唱
讃振へ偏るる道心の振と候けり此處にけり
御殿と別し造りては新造とて極まぬいふ天狗の様
もの此坪の侍と繋固しと見えぬ道に父義守公も直
事なりとて此懐胎よりハ終る此神の畏とも候
る事なりとて此地よりみ時ハ此所は在りけるやんま
の可知事と見えぬ昔唐の徳公とて道へ入るやん
お観音の應化とて在りける黒相なりとてよかぬ